

こいで やすこ (小出 保子) (1938-2010)

絵本作家。1938 (昭和13年) 7月14日、福島県須賀川市に生まれる。4人兄妹の2番目¹。幼少期は戦時中であったが、兄が幼稚園に通っていたときの「キンダーブック」などが家にあり、絵本を見る機会に恵まれて育つ²。小学2年生から中学1年生までを父親の故郷、須賀川市で過ごす。当時のことを保子は次のように語っている。「それまですごく体が弱くて、年中寝ていたりという状態だったのが、田舎に行き病気をしなくなったんです。年がら年中遊びまわり、阿武隈川の支流で泳いだり、山に行きいろいろなものを採ったり、そういうことが体によかったんでしょうね」³。福島での体験が、絵本づくりの源流となっていることを保子は明らかにしている。「子供の頃、遊びまわった福島の川や池、野や山が登場人物達の住処です。川や山では、それぞれの住む家、まわりの草木、食べ物の採取が違うので綿密に緻密に世界をつくります。室内や台所の調度品は、それぞれの性格を表しますので、お皿や茶碗やおなべもしっかり描きます。絵本をとじても登場人物が、それぞれの場所で生活していると思えるように描きたいのです。夕暮まで遊びほうけた野山や川。木や花。日向や雪や草いきれのドキドキするにおい。友達のおしゃべりや鼻水をすする音。子供心に感じたさまざまな記憶はわたしが絵本をつくる時の重要なポイントです。」⁴

また、作品に登場するねずみなどの動物に兄弟や親子が多いという指摘に対し、「子どものころにいつもだれかと一緒だったし、一緒になにか経験したほうがより一層おもしろかったという記憶があるのかもしれないです」⁵と話す。実際、「まわりに父の親類がたくさんいて、いとこなど、子どもが多かったので、子ども同士で、あちこち、山や川や野原を駆け回っていました」⁶という。

東京での高校生活では美術部に入り、芸大への進学を志すが両親に反対され、卒業後は須賀川の両親の下で家事や雑事にあたった。数年後、両親を説得し、再び上京。デザイン会社に勤務しながら、デザインの総合的な基礎・専門教育機関である桑沢デザイン研究所で学ぶ。その後入社した出版社で後に夫婦となる小出淡と出会う。出会った頃の淡について保子はこう語っている。「私はその会社で車の雑誌のデザインをして、彼は書道の本の編集を。小さな会社だったので、みんなで遊ぶことが多かったんです。百メートル何秒で走れるか、とか、泳いだり卓球に熱狂したり。中でもこいでは率先して遊ぶ人でした。」⁷

ふたりは出版社を前後して辞め、淡が文章を書き、保子が絵を描く、子どもの本の創作活動を

¹ 「絵本作家訪問記 こいでやすこさん」『母の友』(535号)では読者記者からのインタビューに対して兄妹は「四人です。兄がいて、下に弟と妹がいて。」(51頁)と答えている。

² 「絵本作家訪問記 こいでやすこさん」『母の友』535号 1997.12 53-54頁

³ 「絵本のたのしみ」『こどものとも年少版』345号 2005年12月号 折り込みふろく

⁴ 「わたしが絵本をつくる時」(「こいでやすこの絵本原画とこどものとも歩み展」ちらいわき市立草野心平記念文学館 2006)

⁵ 2に同じ 51頁

⁶ 「絵本作家のアトリエ10 こいでやすこさん」『母の友』646号 2007.3 12頁

⁷ 6に同じ 16頁

はじめる。ふたりの共作には『とんとんとめてくださいな』（1981 年刊）をはじめとする三匹のねずみのシリーズ、『ちびねこのちよび』（1984 年刊）、『なぞなぞかけた』（1985 年刊）、『とてもとてもあつひ』（1990 年刊）などがある。保子は当時のことを次のように話している。

「須賀川の家にはいた黒いネコのことを思い出して。古い家なのでネズミが多くて、大運動会をするんです。それでちっちゃい黒ネコをもらってきたら、その日のうちに、自分くらい大きなネズミをとってきた。それから毎晩とってきて、かならず私たちの布団の上のにせるんです。その話をこいでにすると、『もう一回、もう一回』って何度でも聞きたがるんですね。そのお話が『ちびねこのちよび』という絵本になりました。」⁸

1986（昭和 61）年 2 月に 47 歳の若さで淡が亡くなり、同年 6 月に『とんとんとめてくださいな』が、優れた児童書に贈られるオランダの銀の石筆賞を受賞する。後に保子はこの絵本について、「須賀川のころに、そういう歌遊びがあったんですね。それをもとに、動物たちがいっぱいベッドにいる、というシーンが描きたくなかったです。そうして作っていったのですが『とんとん』のシリーズが三作できたところで、こいでが病気になって……」⁹と語っている。同書は日本だけでなく、フランス語、英語、オランダ語、スウェーデン語、韓国語に翻訳され、各国で親しまれる絵本となった。

淡亡き後、保子は絵本の文章・絵ともに一人で創作するようになる。

生家の天井裏にいたねずみ達から着想を得た¹⁰『もりのひなまつり』（1992 年刊）、須賀川の西川で遊んだ日々が土台となった¹¹『たろうめいじんのたからもの』（2003 年刊）、初めて福島で冬を過ごしたときの雪の日の思い出がもとになった¹²『なっちゃんのゆきうさぎ』（2007 年刊）など、福島で過ごした子ども時代の体験から多くの絵本が生まれた。

『おいちののだーるまさん』（2011 年刊）は絶筆となった作品である。2 年半近くの闘病生活の中、病床で描かれた下書きを小淵ももが完成させ、こばやしえみこが文章を添えた。子どもたちの遊ぶ姿が生き生きと描かれたこの作品から、死の影は微塵も感じられない。むしろ、力強く明るい生命力に満ちた作品となっている。

そしてもう一冊、保子が最後に手がけた絵本がある。没後 20 年以上経て見つかった淡の手書き原稿を絵本にしたものである。この原稿を見て、保子は驚きとともに「淡の字だわ」と喜んだという¹³。保子が「おそらく自分のようなやわらかいタッチの絵ではなく、もっと力強い、線のくっきりとした絵をイメージしてお話を書いたのだと思う」と話したことから、絵を版画家早川純子が担当することになった¹⁴。保子は亡くなる直前までこの絵本の打ち合わせを重ねたという。この『うさぎさんのあたらしいいえ』¹⁵のラストシーンは、うさぎの家のバラ咲く垣根の内側から見た

⁸ 7 に同じ

⁹ 7 に同じ

¹⁰ 「絵本のたのしみ」『こどものとも』432 号 1992 折り込みふろく

¹¹ 「絵本のたのしみ」『こどものとも』569 号 2003 年 8 月号 折り込みふろく

¹² 「絵本のたのしみ」『こどものとも年少版』358 号 2007 年 1 月号 折り込みふろく

¹³ 「絵本のたのしみ」『こどものとも年中向き』324 号 2013 年 3 月号 折り込みふろく
「編集部だより」より

¹⁴ 13 に同じ

¹⁵ 小出淡 作 早川純子 絵『うさぎさんのあたらしいいえ』こどものとも年中向き 324 号 2013. 3

きつねが描かれている。これと似たシーンで終わる淡と保子の絵本に『はるですはるのおおそうじ』（1989年刊）がある。家の前のバラのアーチに三匹のねずみが立っている。そのまん中のネズミはメッセージカードを添えたバラの花かごを抱えており、カードには「MY. T. K」と書かれている。この“T. K”は小出淡のイニシャルだと考えるのは深読みのしすぎだろうか。淡亡き後、長くひとりで創作活動が続けてきた保子は、淡の遺稿を世に出すために道筋をつけ、いわば再び淡とともに作品をつくり、人生を終えた。小出保子 2010年2月18日、71歳で逝去。

こいでやすこ作品所蔵一覧

出版年	年齢	書名(漢字)	共著者	出版社	シリーズ名・誌名	請求記号
1973.4	34	ぼくもとびたい	たかはしひろゆき文	金の星社		P コヤ
1976.3	37	くさずきんのおひめさま	上地ちづ子 脚本	童心社	かみしばい世界むかしばなし	K クサ
1977.3	38	ほおずきまつり	千江 豊夫 作	アリス館		913 沖
★1981.9	43	とんとんとめてくださいな	こいでたん ぶん	福音館書店	福音館のペーパーバック絵本	P コヤ
1983.1	44	ムウちゃんのおみやげ	ひろせひさこ 作	佑学社		913 ヒヒ
1983.4	44	おおかみこわい	こいでたん 作	佑学社		913 コタ
1984.3	45	ちびねこのちよび	こいでたん ぶん	福音館書店	福音館のペーパーバック絵本	P コヤ
1985.3	46	ジャンジャカかせとちびきょうりゅう	小出淡 作	小峰書店	こみね幼年どうわ	913 コタ
1985.12	47	なぞなぞかいた	こいでたん ぶん	小峰書店	こみねのえほん	P コヤ
★1987.11	49	ゆきのひのゆうびんやさん	こいでたん ぶん	福音館書店	福音館のペーパーバック	P コヤ
★1989.4	50	はるですはるのおおそうじ	こいでたん ぶん	福音館書店	福音館のペーパーバック絵本	P コヤ
★1990.6	51	とてもとてもあついひ	こいでたん ぶん	福音館書店	福音館のペーパーバック絵本	P コヤ
★1992.3	53	もりのひなまつり		福音館書店	こどものとも 432号	P コヤ
1992.7	54	かくれんぼおに ほっぶとすてっぶ	ぎょうせい		そうさくえほん 藤 なかまていいな	P コヤ
★1992.9	54	やまこえのこえかわこえて		福音館書店	こどものとも傑作集	P コヤ
1992.10	54	はなづりのまる ほっぶとすてっぶ	ぎょうせい		そうさくえほん 藤 聖徳の世界で遊ぼう	P コヤ
1993.1	52	どろんこーん ほっぶとすてっぶ	ぎょうせい		そうさくえほん 藤 やさしさをもって	P コヤ
1993.11	55	こもものおうち		福音館書店	もぐらのこもも	P コヤ
1993.11	55	こもものともだち		福音館書店	もぐらのこもも	P コヤ
1993.11	55	こもものふゆじたく		福音館書店	もぐらのこもも	P コヤ
★1995.3	56	おなべおなべにえたかな		福音館書店	こどものとも 468号	P コヤ
1996.6	57	かさかしてあげる		福音館書店	年少版こどものとも	P コヤ
1997.7	58	きょうはちょうどよいひより		福音館書店	こどものとも 年中向き	P コヤ
1998.1	59	おおきないけ		教育画劇		K オオ
★1999.8	61	むんむんあついひ		福音館書店	こどものとも 年少版 269号	P コヤ
★2001.1	62	おおさむこさむ		福音館書店	こどものとも 538号	P コヤ
★2003.8	65	たろうめいじんのたからもの		福音館書店	こどものとも 569号	P コヤ
2003.11	65	なっちゃんもついてこーい		福音館書店	こどものとも 年少版 320号	P コヤ
2005.9	67	あけびみつけた	小林 輝子 ぶん	福音館書店	ちいさながかくのとも 42号	P コヤ
2007.1	68	なっちゃんのゆきうさぎ		福音館書店	こどものとも 年少版 358号	P コヤ
2007.4	68	おべんともっておはなみに		福音館書店	こどものとも 613号	P コヤ
★2011.1		おいちののだーるまん	こばやしえみこ文 小淵もも絵	福音館書店	こどものとも0.12. 190号	P コヤ

★は単行本もあります。 ※『やまこえのこえかわこえて』は単行本のみ所蔵しています。

(児童資料チーム 鈴木史穂)